

日本の民主主義が危ない 民意に背く政治

NNN（日本テレビ系列）が7月20日～22日実施した世論調査の結果、野田政権の支持率は、内閣発足以来最低となった。

【内閣を支持するか】

支持する 21.6%

支持しない 57.6%

【「オスプレイ」の安全性が確認されれば沖縄に配備するという野田内閣の考えについて】

支持する 26.0%

支持しない 61.3%

【野田内閣が大飯原発運転を再開したことについて】

支持する 36.1%

支持しない 48.3%

野田内閣の暴走はとどまるところを知らない。上記のように、オスプレイ配備についても大飯原発再稼働についても、国民の多数は支持していない。消費税増税についても、各種世論調査共通して反対が上回っている。

暴走は加速し、それにつれ内閣支持率は低下、上記の調査では、21.6%にまで落ち込んでしまった。

国民の意思からこれだけ離れた政策実行に政治生命をかけることは、民主主義国家で許してはいけない。あなたの政治生命が終わるかどうかはたいした問題ではない。国民の生活・生命に関わることを、民意に反して行うことこそが大問題。民主・自民・公明が手を組めば、大抵の法案は通る、政治も動かせる、そう思っているのか。

それらの政策が国民にとって必要だというなら、国民が納得するまで説明しなければならない。野田さんが言えば言うほど、行動すればするほど消費税増税や原発再稼働・オスプレイ配備などの重要課題での支持を失っているということをきちんと見て欲しい。国民の声に耳を傾けて欲しい。

そういう状況下、もう黙ってはいられないと、国民の思いが今までにない形となって現れたのが、脱原発のかつてない行動だ。

毎週金曜日の官邸前行動2週3週と続くうちに数万という規模に拡大。7月16日には17万人（主催者発表）が代々木公園を埋め尽くした。それだけではない。

7月29日（日）には、国会包囲の100万人行動を行うという。国民が直接民主主義の画期となる行動を、今起こしている。



我が家のヒマワリ 2012.7.23.